

授業科目名		開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態																											
精神看護学特論Ⅲ(精神看護倫理・当事者論)		1	前期	2	講義 30時間																											
担当教員	田中美恵子、畠山卓也																															
授業概要	精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者が求める精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレスモデルを基盤に洞察する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護倫理の基礎理論を学び、実践を倫理的観点からみるための基礎を養う。原則論、臨床倫理(手順論)、ナラティブ倫理を扱うとともに、隔離拘束に伴う倫理について学ぶ。 2. 手順論、ナラティブ倫理をもとにして、倫理的事例検討を行う。 3. リカバリーモデル・ストレスモデルなど、当事者中心のモデルについて理解する。 4. 当事者の手記、当事者の視点に焦点を当てた研究等を読み、当事者体験を理解する。 																															
履修条件	特になし																															
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>臨床倫理・ナラティブ倫理：臨床倫理とナラティブ倫理の理論について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。</td> <td>畠山</td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。</td> <td>畠山</td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>事例検討：ナラティブ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>11-12</td> <td>当事者論：リカバリーモデルの思潮、概念について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>13-14</td> <td>当事者論：ストレスモデルの理論と応用について学ぶ。</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。</td> <td>田中</td> </tr> </tbody> </table>					回	内容	担当教員	1-2	倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。	田中	3-4	臨床倫理・ナラティブ倫理：臨床倫理とナラティブ倫理の理論について学ぶ。	田中	5-6	隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。	畠山	7-8	事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。	畠山	9-10	事例検討：ナラティブ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。	田中	11-12	当事者論：リカバリーモデルの思潮、概念について学ぶ。	田中	13-14	当事者論：ストレスモデルの理論と応用について学ぶ。	田中	15	当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。	田中
回	内容	担当教員																														
1-2	倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。	田中																														
3-4	臨床倫理・ナラティブ倫理：臨床倫理とナラティブ倫理の理論について学ぶ。	田中																														
5-6	隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。	畠山																														
7-8	事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。	畠山																														
9-10	事例検討：ナラティブ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。	田中																														
11-12	当事者論：リカバリーモデルの思潮、概念について学ぶ。	田中																														
13-14	当事者論：ストレスモデルの理論と応用について学ぶ。	田中																														
15	当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。	田中																														
教科書	特に指定せず。																															
参考書	<p>宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ、第2版、医学書院、2011.</p> <p>鶴若麻理、麻原きよみ：ナラティブでみる看護倫理、南江堂、2013.</p> <p>マーク・レーガン著、前田ケイ監訳：ビレッジから学ぶリカバリーへの道、金剛出版、2005.</p> <p>チャールズ・A・ラップ他、田中英樹監訳：ストレスモデル 精神障害者のためのケースマネジメント、金剛出版、2008.</p>																															
評価方法・基準	プレゼンテーション準備度20%、講義および討議への参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。																															
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること。事後には、学んだことをもとに、臨床での事例について、当事者の視点および倫理の視点から考えてみる。																															
備考	特になし																															